

「柏崎の橋」

62 国道8号 ^{とよだばし} 豊田橋 (山本・東原町・原町)

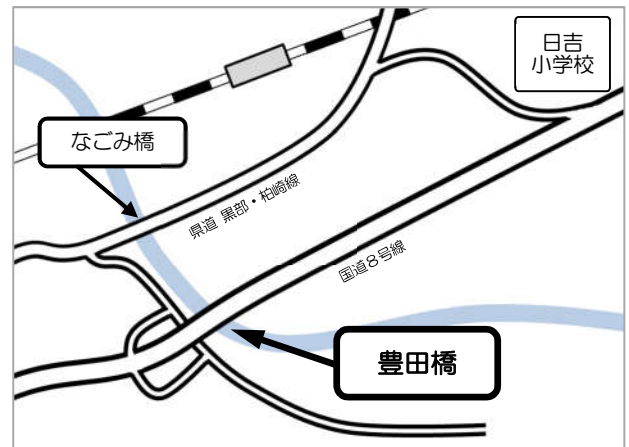
豊田橋は鯖石川に架かる国道8号上の橋梁であり、山本と東原町・原町を結んでいる。

「陸の孤島」と呼ばれた柏崎では、柏崎～山本～長岡を結ぶ道が国道に昇格した昭和27年以降、この道を自動車が快適に通行できるよう改修することが待ち望まれていた。その後、関係者の働きかけが実り、国道8号が国の道路整備計画に繰り入れられると、渋滞が発生する市街地を迂回するバイパスが新たに作られることになった。日吉小学校前から枇杷島方面に延びるこのバイパスが鯖石川を渡る場所に、昭和38年に建設されたのが、現在の豊田橋の前身である。バイパスができた結果、「諏訪町から日吉小学校までの時間をバイパスと旧国道で比較すると、バイパスは3分の1で済む」と言われるほど交通環境は改善した。なお、バイパス近くの旧国道上にも「豊田橋」という名の橋があったが、これはそのまま残された。後に旧国道は県道黒部・柏崎線となり、この橋は国道の豊田橋との区別するため、架け替えの際に「なごみ橋」と改名されることになる。



4つの豊田橋

手前から①国道の新豊田橋（建設中）、②国道の旧豊田橋、③県道の旧豊田橋、④県道の新豊田橋（なごみ橋） 一番奥は越後線の鉄橋



しかし市街化の進展と交通量増加により、このバイパスも慢性的な渋滞が発生するようになったため、バブル時代には別のバイパスが計画された。それが長崎と鯨波を結ぶ「柏崎バイパス」であり、このバイパス事業の一環として新たに作られることになったのが現在の豊田橋である。ちなみに、橋のたもとには東原町遺跡があり、ここからは14世紀頃のものとする土器や、大量の古銭が入った壺が見つかっている。これらは、富裕農民・豪族といった有力者が住んでいたことや、舟運による経済活動が行われたことを示唆するという。

現豊田橋の建設は鯖石川の改修に合わせて行われた。橋の完成は、やはり鯖石川改修事業として架け替えられた「県道の豊田橋」と同じく、平成17年である。ふたつの橋を同時期に架け替えたため、一時は、わずか200mほどの区間に4本もの豊田橋が架かる、珍しい光景が見られた。

県道黒部・柏崎線の豊田橋・なごみ橋については ソフィア だより219号（平成26年9月発行）をご覧ください。

●参考にした本

『一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書 Ⅲ』
(200 Nキヨ) 新潟県教育委員会 編
『柏崎市の遺跡 XII、XIV、XV、』(224 Kキヨ)
柏崎市教育委員会 編